

## 第1分科会

テーマ：現場実践から再発見！ 私たちにとっての「福祉の専門性」

### 分科会のねらい

高齢者・障害者・子どもたちへの福祉が、原則として「契約」により提供されるようになりました。そのため現場では、支援の内容や提供時間に多くの制約が設けられ、切り刻まれたサービスの提供は、利用者の全人格を尊重する支援を困難にするだけでなく、職員の働きがいや生きがいをも奪いつつあります。

しかしそんな困難な中であっても、いまでも現場では様々な工夫を重ねた実践が積み上げられています。そしてそこには本来福祉労働が備えるべき、きらりと光る「専門性」があります。いま私たちが大切にしなければならない「福祉の専門性」とは何か。福祉職員・制度利用者・家族・関係者など様々な立場から、あらためて考えあうことで、この国の福祉制度をよりよいものにしていくための課題を共有していきましょう。

### プログラム案と報告者候補・報告テーマ

○シンポジウム 「私がこの仕事をしてよかったと感じたとき」

シンポジスト 保育分野、障害分野、高齢分野、地域福祉分野

コーディネーター 垣内国光さん（明星大学名誉教授）

○報告 「政府が現場に求める福祉の専門性」

木戸利秋さん（日本福祉大学教授）

○論点整理 「福祉の専門性」をめぐる今日的状況 垣内国光さん

○分散会（2～3）シンポジウムと論点整理を通して思ったこと・感じたこと

○分科会全体のまとめ

分散会での議論の特徴の報告とコメント